

電子情報工学専攻(博士後期)

専攻の教育理念と教育目的

現代社会は生産組織と社会生活の両面で大規模広域化と複雑化の一途を辿っています。電気電子工学と情報工学はこのような社会に必要な基盤技術となっています。現代社会を維持・発展させるためには、電気電子工学と情報工学の分野に高度な専門性を持ち、かつ、ハードウェアとソフトウェア及びその基礎にある数理的手法に通じた人材の養成が強く求められます。本専攻では、電子情報工学の分野においてこれまでの科学技術を継承しさらに発展させることのできる人材を育成し、高度専門職業人、技術者、研究者として社会に送り出すことを目的としています。専攻分野としては、電気電子工学の3分野(電気エネルギー工学、電子物性デバイス工学、通信システム工学)と情報工学の3分野(情報システム工学、知能情報工学、応用情報工学)の3分野、計6分野があります。

●専攻のディプロマ・ポリシー(学位授与の方針、修了時に必ず身につける能力)

1. 電子情報工学の一分野における科学技術の研究を主体的に行うことができる。
2. 電子情報工学の一分野における技術開発、学術研究で後進を指導することができる。
3. 社会における技術者、研究者の役割を自覚し、科学技術をもって社会に貢献することができる。

●専攻のアドミッション・ポリシー(学生受け入れの方針、入学時に問われる能力)

1. 博士前期課程で学んだことを基礎に、研究遂行能力をさらに高め、科学技術の発展に寄与したいと志している。
2. 修士学位保持者または同等の学力と経験を持ち、研究遂行能力を高めて、社会の諸問題に科学技術の側面から一層の貢献をしたいと志している。

●専攻のカリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針、カリキュラムの特徴・特色)

カリキュラムの概要

カリキュラムは専門性の涵養を目的とした専門教育科目と総合性の涵養を目的とした総合教育科目からなり、これらの科目群によって上記DP1、2が実現されるように構成されています。前者の電子情報工学特別研究と特別演習は在学期間を通して行われる必修科目で、指導教員の指導の下に専攻分野についての研究を行います。後者は電気エネルギー工学、電子物性デバイス工学、通信システム工学、情報システム工学、知能情報工学、応用情報工学の6分野の科目群から選択履修することができます。